年間授業計画　新様式

高等学校 令和5年度（１学年用） 教科　　芸術　　科目 書道Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　書道Ⅰ　　単位数：　2　単位
対象学年組：第　　１学年　１組～　４組
使用教科書：　（ 書Ⅰ〈光村図書〉　　）
教科　　芸術　　の目標：
【知識及び技能】　諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に収集し、作品を明瞭・的確にまとめる**技能**を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】　作品の課題を設定し、その解決に向けて考察・構想して作品を効果的に**表現**する力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】　より高い作品の**完成**を視野に、課題解決の過程を振り返って改善しようとする主体性を身につける。
科目　　書道Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身についている。 （用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する）	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができる。 （作品の課題を設定し、その解決に向けて考察・構想して作品を効果的に表現している）	授業内容に関心を持ち、積極的な姿勢での取り組む。 古典臨書の理解力と実践・発展力、また創作作品制作時の発展的な想像力の充実が図れている。 適切な用具用材の取り扱い（準備、片付け等を含む）ができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 漢仮	表現 漢	表現 仮	鑑賞	評価規準	知	思	学	配当時数
1学期	◆書写から書道へ ◆臨書 ◆用具・用材、姿勢 ◆基本用筆	① 書道の三分野を確認し、臨書・鑑賞・創作の学習を通して、自己の創造的な表現に生かすことを理解する。 ② 臨書の方法、拓本に関する基礎的な知識を身につける。		○		○	（知）書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。 （学）芸術科書道の学習に関心をもち、書道で学習することや、小・中学校の国語科書写で学習した内容に関心をもち、主体的に取り組んでいこうとする態度を養っている。	○	○	○	2
	【漢字の書】 ◆楷書の学習 ▷『孔子廟堂碑』 ▷『九成宮醴泉銘』 ▷『雁塔聖教序』 ▷『顔氏家廟碑』	① 作品成立の経緯や書風、碑文の内容と大意、筆者の人物像や唐の太宗との関係を理解する。 ② 教科書の各古典を鑑賞し、伸びやかな点画や向勢で丸みのある字形がもたらす柔和な書風を感じ取る。		○		○	（知）楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 （知）楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 （思）楷書の古典の書体や書風に即した用	○	○	○	15
	◆唐の四大家に学ぶ楷書の基本	① 四つの古典から受ける全体的な印象、イメージ（風趣）を「鑑賞のための言葉」を参考にして言葉で表す。 ②「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」の「用筆」と「九成宮醴泉銘」「顔氏家廟碑」の「字形」を比較		○		○	（知）楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 （知）楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 （思）楷書の古典の価値とその根拠について	○	○	○	1
2学期	◆行書の学習 ▷『蘭亭序』 ▷『風信帖』	① 行書の成立過程を再確認し、行書を楷書と比較して、点画の丸み、連続・省略などの特徴を理解する。 ② 巻末折込で各古典を鑑賞し、抑揚を利かせた用筆や、筆脈により自在に変化する文字の姿を感じ取		○		○	（知）行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 （知）行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 （思）行書の古典の書体や書風に即した用	○	○	○	14
	◆篆書＊隷書の学習 ▷『泰山刻石』 ▷『曹全碑』 ◆各古典の書風を生かした作品制作	① 篆書＊隷書の成立過程、作品が作られた経緯や書風について理解する。 ②「学習のめあて」を確認し、小篆と隷書の字形や線質、用筆の特徴を理解する。 ③「泰山刻石」を鑑賞・臨書し、小篆特有の縦長で左右相称の構え		○		○	（知）篆書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 （知）篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 （思）篆書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。	○	○	○	10
3学期	**【仮名の書】** ◆仮名の成立と種類 ◆仮名の筆遣い ◆平仮名 ◆変体仮名 ▷『高野切第三種』	① 漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。 ② 平仮名とは系統の異なる、片仮名の成立と字源について理解する。			○	○	（知）仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質、字形を生かした表現をするための技能を身につけている。 （思）仮名の古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。	○	○	○	12
	◆漢字かな交じり書	① 漢字仮名交じりの書の特徴を理解し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。 ② 作品鑑賞を通して、書かれている言葉に着目し、言葉を表現するためにどのような表現の工夫が見	○			○	（知）用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 （知）目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている。	○	○	○	4 合計 58